

「ササクレヒトヨタケ」

キノコはさまざまな方法で胞子を拡散させます。多くのキノコは、傘の裏にあるヒダや管孔に胞子を作り、風に乗せて拡散します。胞子の入った袋を飛ばす「タマハジキタケ」のような、風変わりなキノコもあります。

「ササクレヒトヨタケ」もその一つです。最初は真っ白なマッシュルームのようなキノコで、その段階では食用になります（無毒）。しかし傘が生長すると、酵素によって自家消化を始め、下縁部から溶け出します。この真っ黒な胞子塊は、雨とともに流れて拡散するわけです。一晩で溶けてしまうので「一夜茸」というわけです。キノコの「知恵」ですね。



「ササクレヒトヨタケ」 *Coprinus comatus*

もとはナヨタケ科ヒトヨタケ属でしたが、現在はハラタケ科ササクレヒトヨタケ属に分類されています。溶けても洗えば、柄は食用になります。（北軽井沢大学村で撮影）

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）